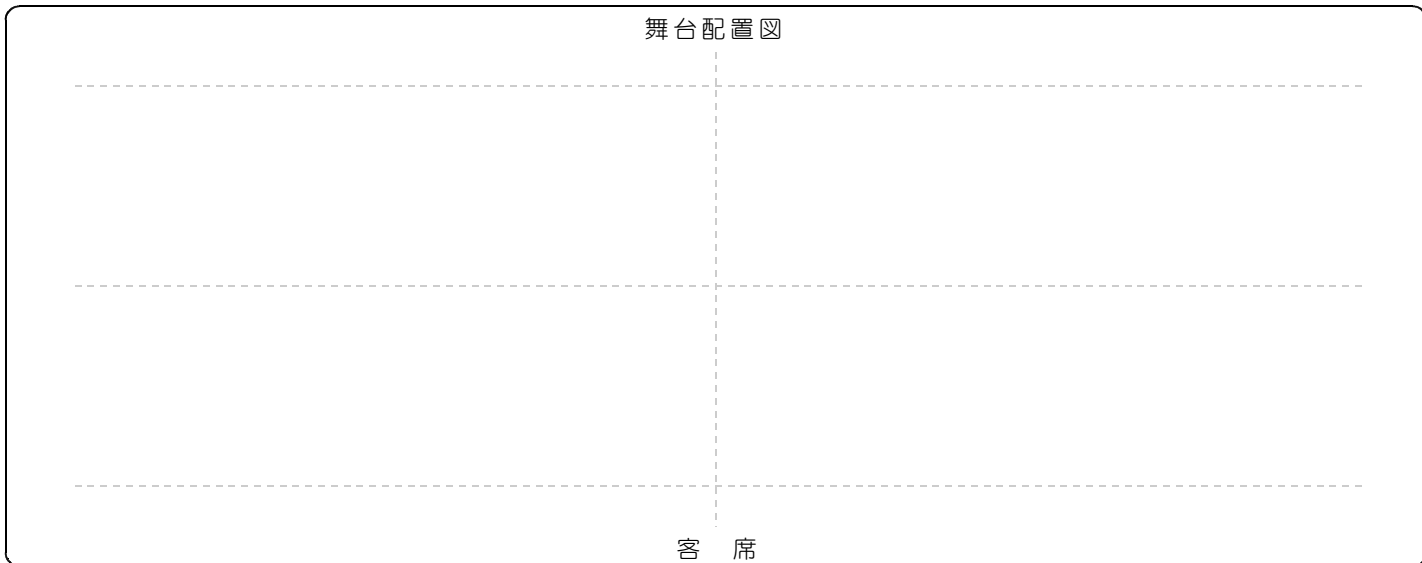


No.	黒田節による幻想曲	演奏者数	演奏時間
-----	------------------	------	------

舞台配置図



客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：独奏箏		1箏		2箏		17絃		尺八						
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾				
独奏	D	G	G#	C	D	F	G	G#	C	D	F	G	G#				
1 箏	独奏箏と同調絃																
2 箏	G	D	F	G	G#	C	D	F	G	G#	C	D	F				
	平調子より三八巾半音↑ 四九六斗半音↑ 五十半音↓ 一は四と同音 二はD																
17絃	D	D#	F	G	G#	A#	C	D	D#	F	G	G#	A#	C	D	D#	F
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	1	2	3	4	5	6	7
尺八	一尺八寸管 □ = D																

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1957年 委嘱者 一 構成 箏独奏・箏 I・II・十七弦・尺八 時間 13分 出版楽譜 前川出版
 解説 この曲は私が芸大に在籍中の1957年に書いたもので、新日本音楽時代の華やいだ雰囲気を持たせた曲です。
 作曲の動機は、今でも大変に好きな曲のひとつである宮城道雄先生の「越天楽変奏曲」が、胡弓や洋楽系の楽器
 など大きな編成が必要とされる事から、もう少し小編成で合奏の面白さを発揮できる曲を、と考えたことでした。
 初演当時この曲は尺八のパートは無く、後に尺八を加えるという経過で現在の形となったものです。1957年作曲。
 [作曲者] 収録媒体 箏 沢井忠夫作品集5 (VZCG-582) 現代箏曲名曲選5 沢井忠夫 (VXCD-2005)